

多文化社会における外国人学校の現状と課題

—外国人幼児・児童の造形表現教育をとおして—

深 尾 秀 一

A Study of an Ethnic School in a Culturally Diverse Community:
Through Artistic Expressive Education at Colégio Santana

Hidekazu FUKAO

キーワード：外国人学校，美術教育，多文化共生

1. はじめに

現在，日本の少子化問題とともに移民政策の導入が論議されているが，すでに日本には多くの外国人が来日・在留している。滋賀県下においても，戦前からの韓国・朝鮮人や，また平成2年の入管法改正施行後に来日したニューカマーと呼ばれる日系人も多く，地域社会の様々な場面においても外国籍住民と接することが増え，多様な文化が地域社会の中で感じられるようになってきた。しかし，多様な文化を受け入れるための日本の制度や意識が現状に追いついていないために様々な問題が発生している。そのため，地方公共団体等では総務省の「多文化共生推進プラン」¹⁾を基に独自の地域性に適合したプランを作成し，地域の課題を解決し多文化共生社会の実現を推進しようとしている。教育，とりわけ外国人の幼児教育分野もその課題の一つである。しかし，外国人や外国籍児童の問題は地域社会の中で周縁化され，容易に実態や課題を把握することが難しいのが現状である。

本学は，保育士，幼稚園教諭の養成校であり，多文化共生社会のなかで今後保育・教育者となる人材の育成を責務としている。しかし，多文化教育や多文化共生に関する教育はほとんど行われていないのが現状である。平成26年3月と6月に本学の在学生（幼稚園161名，保育所，施設各147名）を対象に，実習先機関のカルチュラル・ダイバーシティに関するアンケート調査を実習後に行った。その結果，保育所では38.8%，施設では10.9%，幼稚園においては30.1%の学生が各実習先に外国人児童がいたと答えた。また機関数としてみれば，保育所の33%，施設の10%，幼稚園では45%の各実習先機関に外国人児童が在籍していたという結果であった。すでに学生時代から外国人幼児・児童に接している状況が存在している。

多文化社会における外国人学校の現状と課題

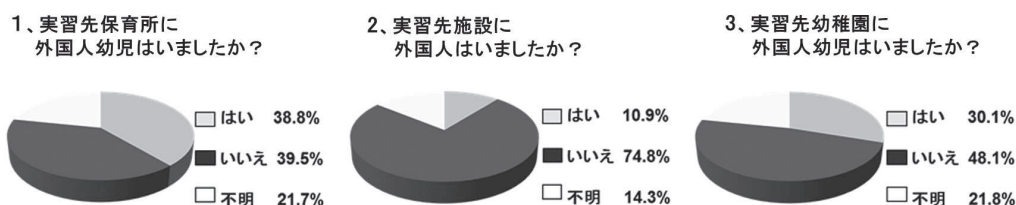


図1 カルチュラル・ダイバーシティに関する調査結果

滋賀県立大学人間学部 滋賀県内多文化保育調査研究グループ（平野知見，鈴木祥子，別府グロリア照美タケイ，竹下秀子）²⁾ が2010年度に行った「多文化な子ども」に関する調査では滋賀県内の認可保育園所（251園所）無認可保育園所（58園所）に0歳から6歳までの外国人児童409名が在籍していたという結果もある。

また、現在滋賀県内には3校のブラジル人学校があり、日本の保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校などへの帰属を諸事情から望まない外国人家庭児童の受け皿となっている。しかし、ブラジル人学校における保育所の多くは、託児所という側面が強いと言われており、子どもへの保育や教育が、どの程度保障されているか明らかにする必要があると考える。

多文化保育の研究において、堀田正央（2009）³⁾ は『マジョリティに対する保育を前提に考えられてきた従来の養成課程において重要性を強要されてこなかった可能性のある多様性の受容等に関わる保育の配慮事項について、保育所保育指針にも明言されていることから、しっかりとカリキュラムに組み込みながら在籍学生の多文化共生社会にむけた意識を涵養する必要がある。』としている。

今回の研究調査では、一つのブラジル人学校を取り上げ、幼児クラスを対象に美術教育としての造形表現活動を行い、そこから見えてくる現状を把握・考察し、外国人児童の教育を考えるとともに、養成校として学生の指導に寄与するデータの収集を目的とした。本著では、平成25年度の調査活動とその結果について報告する。

2. 調査活動の背景

法務省の平成25年度末の確定値発表⁴⁾ では日本における外国人数は2,066,445人である。また、滋賀県作成のデータ⁵⁾ によると県下における県内外国人数は2013年末、87か国24,712人で、県民59.6人に1人は外国人である。リーマンショック以降、外国人総数（図2）は減少傾向にあるが、ブラジル人国籍の外国人が主に減ってきているものと考えられる。しかし、「日本再興戦略」改定2014⁶⁾ ではアジア地域からの技能実習生の受け入れ拡大が検討されている。今後、技能実習生、留学生や国際結婚による外国人配偶者など様々な外国人住民が増加するものと考えられる。

1990年に行われた『出入国管理及び難民認定法』改定の施行後、活動内容に制限のない「定住

者」という在留資格で南米等の日系人が労働者として日本で働くようになったが、24年後の現在、これらの多くの外国人は日本に生活基盤を置き長期滞在が増える状況である。その結果の一つとして、外国人が多く居住する地域において外国人幼児・児童への教育、保育の需要が急激に高まった。滋賀県内には、長浜市、甲賀市、愛荘町、湖南市ように外国人比率が高い外国人集住都市（表1）がある。当然このような地域には、外国人学校の他、外国につながる児童が在籍する日本の幼稚園や保育所が多く存在している。

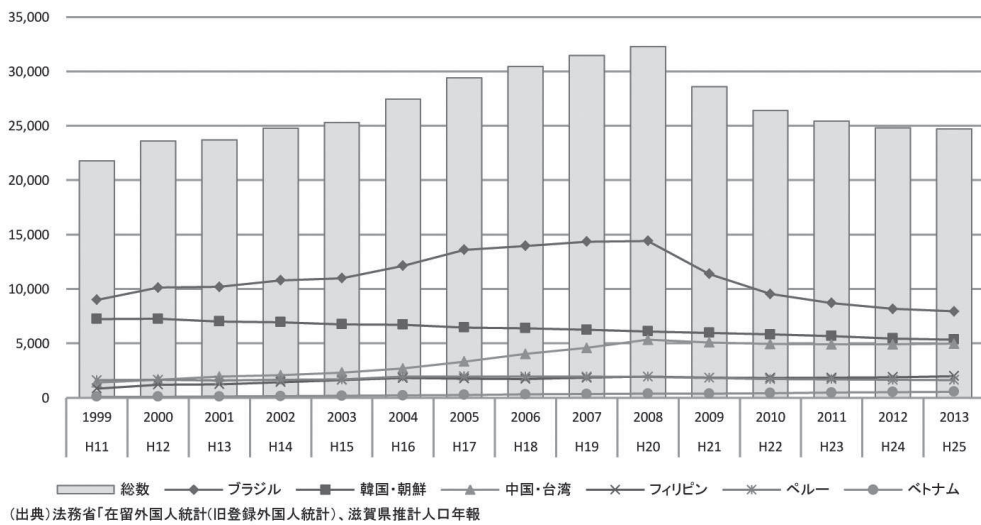


図2 国籍・地域別滋賀県外国人人口（滋賀県商工観光労働部観光交流局国際室作成）

表1 滋賀県 外国人人口の比率が2%以上の市町村（滋賀県国際協会作成）

| 外国人人口の比率が2%以上の市町村（平成25年12月末現在） | | | | | |
|--------------------------------|------|----------|-----------|----------|---------------------------------------|
| | 市町名 | 外国人人口(人) | 総人口(人) | 外国人比率(%) | 備考(上位3国籍) |
| 1 | 湖南市 | 2,315 | 54,893 | 3.89 | ブラジル 1,051人、韓国・朝鮮 340人、ペルー 330人 |
| 2 | 愛荘町 | 722 | 21,304 | 3.39 | ブラジル 453人、フィリピン、73人、中国・台湾 61人、 |
| 3 | 甲賀市 | 2,594 | 93,368 | 2.78 | ブラジル 1,112人、中国・台湾 404人、韓国・朝鮮 287人 |
| 4 | 長浜市 | 2,971 | 122,783 | 2.42 | ブラジル 1,631人、中国・台湾 442人、ペルー 233人 |
| 5 | 東近江市 | 2,605 | 116,088 | 2.24 | ブラジル 1,351、中国・台湾 381人、フィリピン 259人 |
| | 県全体 | 23,823 | 1,421,720 | 1.68 | ブラジル 7,535人、韓国・朝鮮 5,132人、中国・台湾 4,893人 |

※滋賀県商工観光労働部観光交流局の調査に基づく。
 ※平成23年12月末までは外国人登録者数、平成24年12月末以降は住民基本台帳人口による
 ※平成25年12月末の統計より統計が「中国」「台湾」でそれぞれ統計をまとめています。
 ※県民60人(59.6人)に1人が外国人

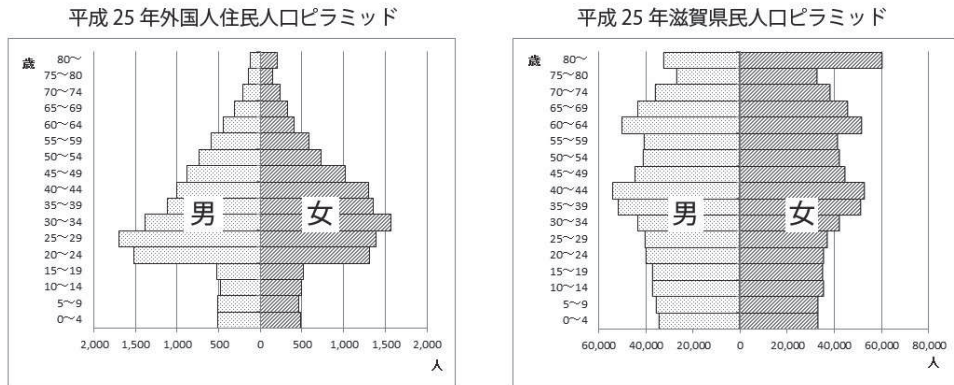


図3 滋賀県人口ピラミッド（滋賀県商工観光労働部観光交流局国際室作成）

滋賀県国際室作成の人口ピラミッドグラフ（図3）から読み取ると、日本人は少子高齢化でなだらかな曲線であるが、外国人の場合20代、30代が他の年齢人口より多いピラミッド型であるのが解かる。この20～30代は子どもを持つ可能性の高い年代で、今後もこの世代の子どもの人口が増えるであろうことが容易に推測できる。当然、地域の保育所、幼稚園に在籍する外国人児童たちが増えると考えられる。

3. 調査概要

3.1 調査対象

調査対象の外国人学校を、コレジオ サンタナ（サンタナ学園）とした。サンタナ学園は滋賀県の東側中央部に位置する愛荘町にあり、周辺地域に外国人労働者を多く雇用している工場がある。日本全体での外国人人口比率は約1.6%であるが、滋賀県には琵琶湖の東側に外国人人口比率2パーセント以上の外国人集住都市が5都市ある。愛荘町はその一つである。愛荘町の外国人比率は3.3%であり、外国人集住都市会議⁷⁾にも属している。サンタナ学園には乳児から高校生までの児童が在籍しており、今回調査では、2歳から5歳までの1クラスの児童を対象とした。当該クラスの登録幼児・児童数はこの期間中に新学年を迎えたため変動があり、平成26年1月末までは14名、平成26年2月からは15名であった。

3.2 調査期間及び方法

期間は、平成25年7月10日から平成26年3月5日とした。調査方法は、学校の状態や児童の基本的な事項についてはヒヤリング及びアンケート調査とした。造形表現活動に関する調査では、当該学園の教室で幼児を対象として8回の造形表現活動を行った。活動の時間は午前9時から午

前10時半までとした。調査活動内容は、造形表現活動を中心に行い、教室の環境や、児童の動向を写真・ビデオに記録した。また、補助的調査として、幼児クラスのその後、同学園で進級した場合のカリキュラムや児童の成長を確認するため一つ上の小学生クラス（6歳から9歳まで）において同じ日程で幼児クラスとは別の活動（大学生による日本語指導）を行い、児童の発育と育成の状況把握に努めた。

調査の過程で必要な画材や、用具材料、消耗品は活動の必要に応じて外部より持ち込んだ。

（画用紙各種、水性絵の具、紙粘土、工作用紙コップ、ブルーシート、カラービニール袋、サインペン、筆、など。）

造形表現活動の日程内容は表2のとおりである。

表2 造形表現活動 日程・内容

| | | |
|-----|--------|----------|
| 1回目 | 8月7日 | 顔合わせ |
| 2回目 | 12月4日 | ビー玉ころがし |
| 3回目 | 12月11日 | 新聞紙あそび |
| 4回目 | 2月5日 | 帽子作り |
| 5回目 | 2月12日 | 線あそび |
| 6回目 | 2月19日 | 飛び出す人形作り |
| 7回目 | 2月26日 | 紙コップ人形作り |
| 8回目 | 3月12日 | 紙粘土遊び |

4. 調査活動からの考察

4.1 学校の概要について

サンタナ学園については、松尾（2008）⁸⁾の実態調査を始め、多くの研究者が調査報告を行っている。よって、今回の調査アンケート、ヒヤリングでは学校の基礎的な現状の把握のみを目的とした。平成26年度3月現在で児童数は66名、教職員数8名、そのうち免許・資格を持っている教員数6名、クラス数6で、0歳から高校卒業までの児童青少年を受け入れている。教職員や児童の数は出入りが激しく変動が多い。生徒は学園を中心とした半径25km以内から送迎バスを利用し通っている。学校はブラジル政府から認可を受けているが、日本での学校法人やNPO法人としての法人格はなく、日本政府等からの援助は受けていない。生徒の多くはブラジル人家庭の児童であるが、幼児のクラスにはブラジルと他国の国際結婚家庭の児童や、日本人家庭の児童も1名ずつ在籍していた。授業は母国ブラジルの学校カリキュラム・システムに準拠しておこなわれている。施設は、プレハブ小屋、平屋ユニットハウス、2階建てユニットハウス、2階建て家屋がある。リーマンショック以前はもう1棟プレハブの建物があったが、現在は児童数の減少に伴い5棟となった。この学園には運動場がなく、住宅地に学校があるため、その前の路上が遊び

多文化社会における外国人学校の現状と課題

場となっているだけであった。毎週金曜日に近隣の体育館を借り、学校からバスで送迎し体育を行っていた。幼児のクラスでは、朝に体操をするなど幼児児童の健康に配慮している。学園では、バスによる送迎や、ブラジル食の給食など日本の公立学校とは違うサービスを行っているが、児童の家庭からの学費だけでは経済的に困窮している。また、学園としての法人格もなく経営的な観点からも厳しい状況である。様々な要因が絡んで、現在の学園施設の整備状況では保育・教育には限界があり、不安定な状況が長年続いている。外国人学校に在籍する児童も今後地域を担う児童である。1994年に「児童の権利条約」⁹⁾を批准した日本としては、早急に支援の手を差し伸べるべきだと考える。

表3 サンタナ学園 年齢別児童数

| 幼児・児童の年齢 | | 人数 |
|----------|--------|----|
| 0 歳 | ～ 1 歳 | 12 |
| 2 歳 | ～ 3 歳 | 10 |
| 4 歳 | ～ 5 歳 | 5 |
| 6 歳 | ～ 8 歳 | 10 |
| 9 歳 | ～ 11 歳 | 14 |
| 12 歳 | ～ 14 歳 | 12 |
| 14 歳 | ～ | 3 |

4. 2 造形表現活動について

今回の調査における美術教育の分野では、調査対象の教室にある画材や教育環境などは、日本の保育所や幼稚園の施設と比べると豊富で充実しているとは言えないことが分かった。また絵画制作活動には一つの検討すべき特徴が見いだされた。

対象の幼児クラスには、登録者数15名の幼児（障害児童1名含）に対し、教員1名で保育を行っている。教室は、2階建の簡易建物（プレハブ）の一階約20平米が教室である。教室は冷暖房完備で、床暖房や、トイレなども設備されていた。しかし、手や画材を洗う洗面所の設備はなく、外か別の建物に行く必要があった。造形表現活動における画材としては、教室にサインペン、工作粘土、絵の具、筆など教室においては有るものの、量的質的に十分と言えるものではなかった。

今回の調査では、環境的制約、人的資源の問題、経済的な問題、このような状況下で様々な造形表現活動を行う事が非常にむずかしい事が分かった。造形表現に関する教育の基盤となる様々な環境が不十分だといえる。

また、調査活動と学園の観察から、幼児の教室や、小学生低学年の教室の壁に貼ってある絵画に、ある特徴があることが分かった。各教室には絵の具などの画材はあるが、教室の壁に貼ってある絵画のほとんどが、鉛筆の縁取りをし、その縁取りした中を色鉛筆で塗ってある絵画がほとんどであった。この点に注目し、過去に開催した「外国人の子ども絵画展」のために集めたサン

タナ学園、朝鮮初級学校、日本の公立学校に属する外国人幼児・児童から集めた作品や、他のブラジル人学校の作品集等を比較した。結果、サンタナ学園以外の他の属性の児童は絵の具や様々な素材と技法を使用し表現しているのに対し、サンタナ学園の児童の絵画のほとんどが鉛筆の輪郭線に色鉛筆での着色絵画であった。またこの比較調査では、一部公立学校に通っている児童の絵画にもみられた点であるが、サンタナ学園の児童が描いた絵画の多くに、ポルトガル語などの文字が絵画の中に含まれていた点も特徴的であることがわかった。

塗り絵の絵画については賛否両論ある。しかし、今回の調査からその頻度の多さが目立ったことにおいて、絵画的表現活動という情操教育分野で、教育の量、質、双方の課題がこの学校に存在しているのではないかと考える。この現象の確証ある原因については現時点では把握していないが、この学校の特殊性を考え、一つの仮説が導き出せると考える。

日常的にここの教室では、言語教育のためアルファベットや単語の書かれたプリント教材を多く目にする。このプリントには文字だけでなく、塗り絵のために線描きされているイラストが入っている。この塗り絵描画活動と造形表現としての絵画制作活動との関係に問題があるのではないかと考える。サンタナ学園は、日本という日本語単一国家の言語環境下で過ごす幼児・児童に対し、母語であるポルトガル語教育に力を入れている。また幼児・児童にとって第二言語である日本語教育においても、同様に力を入れている。造形表現活動が不十分な教育環境中で多くできない状況下において、言語学習のための教材としての塗り絵描画活動が多くの時間を占め、造形表現としての絵画制作活動が出来ないという、アンバランスな量的問題が起因し、このような現象が起きているのではないかと考える。

5. 今後の課題

今回調査対象にした学園は、経済的に非常に苦しい中、可能な限り幼児・児童への教育を行っている学校である。この学校が持つ経済的な問題は、学校の施設や教材だけでなく教育の内容にまでも多大な影響を及ぼしている。とりわけ造形表現の分野では、指導者や教材の不足から充実した授業を行うことが難しいのが実状であり、これは情操教育や言語発達の欠如につながる可能性がある。特にバイリンガルやマルチリンガルとして育つこのような児童にとって、造形活動から養われる言語発達は重要である。母語のポルトガル語や第二言語としての日本語を養う上で、必要不可欠な言語以外の教育の一端が欠如していると考えられる。児童の絵画において見いだされた特徴の要因は、画材量と質や制作環境の問題のほか、母語や、第二言語教育の教材との関係が考えられる。今後の関係を精査し、どのように言語教育と造形表現教育のバランスを取るか調査研究をする必要がある。また今回、学校の基本的調査と幼児児童の行動から、身体発育・発達に必要な教育が保障できていないのではという仮説に対し、今後の研究課題として児童の体力測定も視野に入れるべきである。

多文化社会における外国人学校の現状と課題

註

- 1) 多文化共生推進プラン 総務省 (2006) 平成18年3月27日 - 総行国第79号
- 2) 平野知見 鈴木祥子 別府グロリア照美タケイ 竹下秀子 (2011)
「多文化な子ども」の「気になる姿」は保育所でどうとらえられているか
人間文化 滋賀県立大学 2011
- 3) 堀田正央 (2009)「多文化共生社会における保育士の専門性の向上に関する研究」
埼玉学園大学紀要 P163
- 4) 法務省 報道発表資料 「平成25年末現在における在留外国人数について」確定値
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00040.html
- 5) 滋賀県商工観光労働部観光交流局国際室 (2006)
多文化共生推進プラン改定 懇話会 資料
- 6) 「日本再興戦略」改訂2014 www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/honbun2JP.pdf
- 7) 外国人集住都市会議 <http://www.shujutoshi.jp/>
- 8) 松尾 (2008) 国際社会文化研究紀要 第9号 (2007)
「2006年龍谷大学国際社会文化研究所シンポジウム」
- 9) 外務省「児童の権利条約」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/zenbun.html>

参考資料

Por favor, responda.

1. Nome formal da escola "Santana" _____
2. Data da fundação da escola _____
3. Existe personalidade jurídica (reconhecida pelo governo brasileiro) para o funcionamento da escola? Sim/ Não
4. Existe personalidade jurídica (reconhecida pelo governo japonês) para o funcionamento da escolar? Sim/Não
5. Número de alunos

| | | |
|------------------|-------|-----------|
| De 0 a 1 ano | _____ | 人 pessoas |
| De 2 a 3 anos | _____ | 人 |
| De 4 a 5 anos | _____ | 人 |
| De 6 a 8 anos | _____ | 人 |
| De 9 a 11 anos | _____ | 人 |
| De 12 a 14 anos | _____ | 人 |
| Acima de 14 anos | _____ | 人 |
6. Número de professores _____ 人 pessoas
Dentre estes, quantos são qualificados como professor? _____ 人 pessoas
7. Área de origem dos alunos que frequentam a escola
(Indique a localidade mais longe).
8. Atualmente, o que tem sido alvo de preocupações? Quais são as dificuldades encontradas?

| |
|------------------------------------|
| Na escola como um todo |
| Na jardim de infância (pré-escola) |
9. Se houver a possibilidade, quais dos eventos abaixo seriam desejáveis?
Exposição de desenhos das crianças, trabalhos manuais

| | |
|------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> sim | <input type="checkbox"/> não |
| <input type="checkbox"/> sim | <input type="checkbox"/> não |
10. Por fim, em anexo, favor explicar aproximadamente a programação de um ano, de uma semana e de um dia de uma sala de aula de crianças da pré-escola.
Muito obrigada.

図14 サンタナ学園へのアンケート調査票

カルチュラル・ダイバーシティ に関わる 実習後アンケート (別紙)

学籍番号 _____ ゼミ 名前 _____

A 保育所

1. 実習先保育所に 外国人児童・幼児いましたか?
はい ・ いいえ ・ わからない
- ※1で、はいと答えた方のみ下記設問 2, 3, 4, に答えてください。
2. その保育所に外国人の子どもは何人ぐらいいましたか?
1人~2人 ・ 3人~4人 ・ 5人~7人 ・ 7人以上
3. それは、どこの国の子どもたちでしたか?
ブラジル ・ 朝鮮 / 韓国 ・ 中国 / 台湾 ・ ベルギー ・
フィリピン ・ 他 () ・ わからない
4. その子どもたちを見て、何か気になることはありましたか?

B 施設

1. 実習先に 外国人はいましたか?
はい ・ いいえ ・ わからない
- ※1で、はいと答えた方のみ下記設問 2, 3, 4, に答えてください。
2. その施設に外国人の子どもは何人ぐらいいましたか?
1人~2人 ・ 3人~4人 ・ 5人~7人 ・ 7人以上
3. それは、どこの国の子どもたちでしたか?
ブラジル ・ 朝鮮 / 韓国 ・ 中国 / 台湾 ・ ベルギー ・
フィリピン ・ 他 () ・ わからない
4. その人たちを見て、何か気になることはありましたか?

C 幼稚園

1. 実習先幼稚園に 外国人児童・幼児いましたか?
はい ・ いいえ ・ わからない
- ※1で、はいと答えた方のみ下記設問 2, 3, 4, に答えてください。
2. その保育所に外国人の子どもは何人ぐらいいましたか?
1人~2人 ・ 3人~4人 ・ 5人~7人 ・ 7人以上
3. それは、どこの国の子どもたちでしたか?
ブラジル ・ 朝鮮 / 韓国 ・ 中国 / 台湾 ・ ベルギー ・
フィリピン ・ 他 () ・ わからない
4. その子どもたちを見て、何か気になることはありましたか?

図15本学の学生への実習後アンケート調査票



図4 滋賀県外国人集住都市位置図



図5 顔合わせ 8月7日



図6 ユニットハウス園舎



図7 学園 園舎 遠景



図8 サンタナ学園児童絵画



図9 サンタナ学園児童絵画

多文化社会における外国人学校の現状と課題



図10 幼児クラス絵画教材



図11 12月4日活動風景



図12 母語教育風景



図13 母語教育用プリント